



道しるべ

令和6・1
No.65

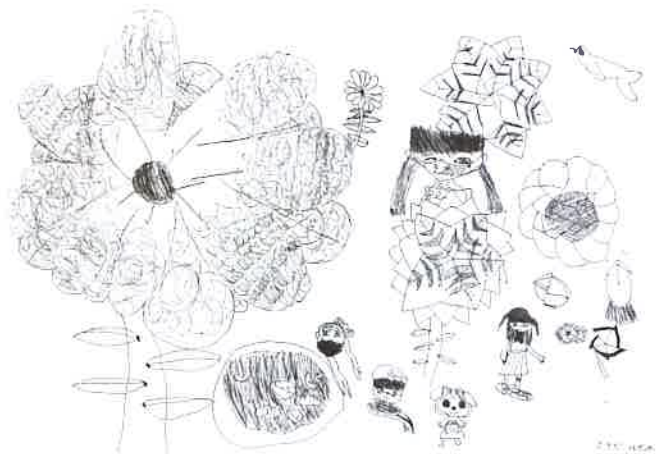
「この道の向こうには、夢がある」

おやこdeアート in 京セラギャラリー (絵画作品展) の作品から

京都府知事賞



京都府母子寡婦福祉連合会会長賞



優秀賞



※京セラ賞及び上記以外の優秀賞については次号でご紹介します。

- 新年のごあいさつ [会長]、全国母子寡婦福祉研修大会 他 P.2
- 新年のごあいさつ [知事]、知事と新入学児童等のつどい P.3
- 京都府母子寡婦福祉大会 P.4 ~ 5
- 楽しいがいっぱい、支会からこんにちは P.6 ~ 7
- 知っとコーナー、指導者研修会、京都府社会福祉大会表彰、あとがき P.8



温かくみまもられて

京都府母子寡婦福祉連合会 会長 佐竹 幸子

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様にはお健やかに新年を迎えられたことと、喜び申し上げます。

昨年は母子会の活動は新しい企画が活発に行われた年でした。

- 「日本プロ野球選手会ドリームキャッチ野球体験教室」9/23

長岡京市様のご協力があり、府内の北から南から38名の参加者が長岡京市に集い、元プロ野球選手の方にボールの投げ方や打ち方を教えていただきました。

- 「おやこdeアートin京セラギャラリー」8/7~8/25 京セラ本社1階のギャラリーに「大好き」をテーマに93点の作品が展示されました。応募者全員に表彰状と参加賞をいただき優秀賞上位10名の中から3名には知事賞・京セラ賞・母子連会長賞が贈られました。

招待事業では

- 「京都サンガF.C.ハートフルシート」サッカー観戦5/14 JR西日本様、京都府様のご厚意で、44名分のチケットをいただき、サンガスタジアムbyKYOCERA(亀岡市)にて、目の前の本物の試合を見て、サポーターの本物の応援を聞きながら親子で応援しました。

- 「坂東流西日本チャリティーゆかた会」6/17 (福)読売光と愛の事業団大阪支部様、坂東会様のご厚意で50名が日本舞踊の鑑賞会に参加しました。

- 「未来につながる環境教室」in丹波篠山11/11 宇多野ユースホステル様及びノエビアグリーン財団様からご紹介をいただき、6組の家族が参加し、体験活動を親子で楽しみました。

また、4月には洛西ロータリークラブ様から、食料品の寄付をいただきました。

困窮しているひとり親家庭にはつらい日々が続いていますが、様々な団体や企業から温かいご支援をいただきましたことに心から御礼申し上げ感謝いたしております。

令和6年度には児童扶養手当の所得制限の引上げや多子への支給拡充、京都府あんしん修学支援制度が拡充されると聞いています。

子どもたちに明るい未来が来るよう更に声を上げて参りましょう。

最後になりましたが、西脇知事様をはじめ関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、今まで私達の会を支えていただいた会員の皆様にご心より御礼申し上げ、新年にあたってのご挨拶とさせていただきます。



11月18日(土)・19日(日) アルカスSASEBO(長崎県佐世保市)にて令和5年度全国母子寡婦福祉研修大会が開催され、4名で参加してきました。

全国

近畿

10月15日(日) 兵庫県民会館 けんみんホールにて令和5年度近畿地区母子寡婦福祉研修大会が開催され、28名で参加してきました(他にオンラインでの参加あり)。



当会母子部長が舞台上で大会決議を担当しました。

令和6年度の全国研修大会は10月27日(日) 富山県民会館(富山県)での開催予定です。(令和6年度から中部・近畿地区に再編となり、全国大会と中部・近畿地区大会を兼ねた開催です。)

各地域での活動報告 (いずれも令和5年) 支会の枠を越えて、北部・中部・南部の地域毎の交流も行っています

Table with 3 columns: 北部 (North), 中部 (Central), 南部 (South). Each column lists activities like 'ブロック別懇話会' and '母子部交流会' with dates and locations.



活力にあふれ誇りの持てる京都づくりへ

京都府知事 西脇 隆俊

明けましておめでとうございます。府民の皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、まず新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に変更され、世の中が少しずつ日常を取り戻しました。長きにわたり感染防止対策にご協力いただいた府民の皆さま、そして、医療従事者をはじめ関係の皆さまに、心から感謝と敬意を表します。そして、明治以来中央省庁で初となる文化庁の京都移転が実現しました。千年にわたる歴史と文化が日々の生活に息づく京都で国と協力して新しい文化政策を創り上げることは、京都のみならず日本全体の地方創生推進に向けての大きな一歩であり、私たちは着実に新たな歴史の扉を開けつつあります。

「進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む」。これは、明治時代に活躍した啓蒙思想家・福沢諭吉の言葉です。目まぐるしく社会が変化を続ける現代において歩みを止めることは、後退するに等しいかもしれません。しかし、時代の変化を柔軟に受け容れながら、受け継がれてきた伝統に常に新しい息吹を吹き込む営みは、これまで京都が脈々と続けてきた

ことであり、これからも京都が担っていくことです。時には歩みを止めて振り返ることも必要ですが、社会が歴史的な転換点を迎えている中、小さな歩みを積み重ねて大きな前進につなげ、新しい価値を常に生み出し続け、活力にあふれ誇りの持てる京都づくりを進めてまいります。

来年には、いよいよ大阪・関西万博が開幕します。新名神高速道路も全線開通に向け、着実に整備が進められております。私たち京都が得意とする交流の力を発揮して、多くの企業、文化の「新しいつながり」を創り、伝統と革新を融合させながら、未来の京都を担う人や企業を育て、文化を創ってまいります。そして、「文化の都・京都」を世界に発信しながら、世界の人たちを京都府全域でおもてなししたいと考えております。

今年辰年です。雲を払い、蒼天に向かって昇っていく龍のように、私たちに託された京都の未来に向けて、京都府総合計画に掲げた一つ一つのプロジェクトを大きく動かしてまいります。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

ひとり親家庭を励ます知事と新入学児童等のつどい

多くの子どもたちに 声をかけください!

今年も京都府・府母子寡婦福祉連合会・府民生児童委員協議会の共催で、次のとおり開催されます。知事さんと一緒に親子でゲームを楽しめます。

- 日時 令和6年3月3日(日) 10:30~14:30(予定)
場所 京都テルサ(京都市南区)
参加対象 新入学児童とその親(兄弟姉妹も一緒に参加していただけます)
内容 お祝いの会(知事と一緒に親子でゲーム、記念品のプレゼント)あそびのひろば(子ども)、講演会(親)
申込方法 各地域母子会会長あてに申し込んでください。
申込期限 令和6年1月31日(水)



【とき】令和5年10月22日（日） 【ところ】京都テルサ

体験発表



一期一会

城陽市母子寡婦福祉連合会 谷口 愛莉



3月4日と5日に宇多野ユースホステルに泊まりに行きました。行き電車で足の不自由なおじさんが乗ってきたので、席を譲りました。そこから会話が始まり、「何年生？どこの小学校？」など、話しながら向かいました。「ああ、その小学校なら隣の〇〇小学校と一緒に、〇〇中学校に進学するね。」と、何か地元にとっても詳しい方でした。もしかすると、学校関係の仕事をしているのかなと思いました。

電車を乗り継いでユースホステルに着くと、私達と同じような親子が10組くらい集まっていた。

最初にそれぞれ名札を書いて胸に付けてからゲームをしました。その後チームに分かれて、バスに乗って移動して、目的地についたらポイントがもらえるゲームをしました。

私のお母さんも、ベアになったお母さんもバスに慣れておらず、行き先と反対方向のバスに乗ってしまったらしく、1位になれなかったのが悔しかったです。

夜は夕食の後、焚き火でマシュマロを焼きました。あまり火に近づけずにゆっくり焼くとこんがりふわふわの美味しい焼きマシュマロができました。

宿泊する部屋は、バスのゲームで一緒だった女の子と同じ部屋で、寝るまでいっぱい遊びました。お母さん同士も子どもが寝た後、夜遅くまで2人で喋っていたそうです。

2日目は火起こし体験とピザ作りでした。

火起こしは思っていたより難しく、なかなか火がつかせませんでした。その分、火がついた瞬間は、本当に嬉しかったです。これまでチャッカマンやマッチでしか火をつけた事がなかったので、なんでわざわざ苦労して火をつける道具を使うのだろうという気持ちが少しありましたが、火がついた時は達成感でいっぱいでした。火がついた後、ピザ生地家族で具材をのせて焼いてもらいました。

火起こしの達成感を味わった後のピザも美味しかったです。帰りは電車ではなく、同じ部屋になったお母さんの車に乗せてもらうことになりました。おうちが隣の市なので、通り道だったそうです。

私も同じ部屋の女の子も、車で寝てしまったのですが、その間にお母さんたちは連絡先を交換して、その後も連絡をとっているらしいです。

私もお母さんも、こんな形で新しい友達ができるとは思っていませんでした。とても不思議で嬉しい気分です。出会いはすごいと思います。これからも交流や出合いを大切にしていきたいです。

母子役員として

舞鶴市母子福祉会 森本 真理子



娘が小学5年の時に友達の紹介で母子会に入会させていただきました。

母子奨学金の手続きがスムーズにできたり、役員の方がこまめに気遣ってくださったり、中でも一番楽しみであり忘れられないのは、毎年行われる「いきいきふれあい事業」。親子に二人きりでは味わえない場所へ比較的少ない負担で行けたこと、一瞬一瞬が私たち親子にとっての一番の思い出です。

次第に娘も大きくなり、中学生も半ばとなった頃に母子役員の話、また同じ友達から勧められました。母子役員と聞くと、「一回入ると辞められなさそう」「仕事大変そう」「みんなの世話するのは大変そう」とマイナスイメージばかり思いつくことと思います。当初の私も同じでした。掛け持ちで仕事をして、朝から晩まで駆けずりまわって、それに加えての役員の仕事は、ただただやることをこなす生活の中のルーティーンのようになっていました。

そんな私に対して、ある時友達から「今までの母子役員の方のいろいろお世話になった恩返しと思ってやっているんだ」という言葉を聞いて、私の気持ちに変化が現れました。私自身、母子会の存在を知り、同じ境遇の仲間と出会ってから救われたことがたくさんあったと思返すことができ、舞鶴で毎週行われている「居場所づくり」で子ども達が学習するところを見守る中、にぎやかだった子ども達が、やる時にはやるケジメができる子どもに成長して

長していくことに喜びを感じ始めました。それはひとえにそれを取り仕切る会長と役員のみならず、そして会長の考えに賛同してくださったボランティアの先生方との協力のもと築きあげてこられた賜物だと思います。この取り組みを今後も時代の流れに沿って創意工夫をしながら、より子ども達が過ごしやすくなり、そして働くひとり親が安心して任せられる場所として提供を続けていければと思っています。

最後に、ひとり親であるほとんどの方が当初の私と同じ考えで、子どもが中学生または高校生になれば母子会は必要ないと退会する方が大半だと思います。『母子会に巡り会ったこと』を振り返る時間を持っていただいてもよいかなと思います。実際、舞鶴市母子福祉会では、中高生もいきいきふれあい事業に参加する子もいますし、高校受験が終わってからも先生方のサポートとして教える側に回ってくれる子もいます。母子会に関わる子ども達がいままで安心して心地よくいられる環境作りをしていくために役員同士と会員皆様と仲良く本音を出し合い、意見交流を深めることが大切です。舞鶴市母子福祉会ではこの体制が今整い始めており、ちょっとした意見のズレも修正を重ねて皆仲良く良い雰囲気です。会員数も増えてきております。現在、「居場所づくり」は公民館を借りて実施しておりますが、今後、一軒家を借りて、いつでももっと自由にみんなが集い、交流ができる場所を作りたいことを目標に活動を続けていきたいです。

仲間を支えられて

南丹市母子寡婦福祉会 勝田 恵美子



私が母子家庭になりましたのは33歳の時で、長女が5歳、長男が2歳でした。

その頃（昭和54年）、私の両親は80歳を超え、病院への入退院を繰り返していました。昭和54年から58年の5年の間に、夫と両親3人の葬式を出しました。

その頃、家庭で子どもを見てくれる人もなく、私は学校に勤めていたので、保育所が終了の時間帯に子どもを迎えに行くことは困難な状況でした。私に助けてくれる兄弟でもあればなどと思ったものです。そんな時、友人が子どもを預かってくれました。本当にありがたかったです。そのおかげで仕事を続けることができました。

長女が小学校2年生の時に小学校から京都新聞丹波版に載せていただいた「子犬のこと」と題した作文があります。ピーターという名の子犬を飼っており、その子犬の様子を書いていました。学校から帰宅しても留守ですので、子犬を自転車の籠に入れて遊びに行くのが常でした。ですが、いつも遊び相手があると制限がないので、どこか安定して行ける場所が必要でした。ひとりぼっちの時間をなくするために、そろばん教室や習字を習いに行かせま

した。現在のように福祉が充実していませんでしたので、何とか子どもが一日無事に過ごせるように願い、毎日が大変なことが思い出されます。そんな時に母子会に友人が勧誘してくれました。

海水浴に皆さんに連れて行っていただいたときは嬉しかったです。私ひとりで幼い子を連れ海水浴は厳しいです。母子会といった仲間があり、心丈夫になり、いろんな行事にも参加させていただくことで、子どもを成長させていただけました。

子どもの成長につれ、親も楽になれると思っていましたが、そんな簡単なことではなく、品替わり苦労が押し寄せてきます。心が休まる間もありませんでした。少しほっとした時代は子ども達が大学に行っていた頃ですが、卒業してやっと楽になるかと思えば、娘が33歳で亡くなり、息子も不調となりました。今は何とか落ち着いています。

世界を見渡せば戦争等で食事や生活が困難な人がたくさんおられます。今、元気で、こうして生きておられることに感謝しなければと言いきかせ、自分なりに生き甲斐を持っていきたく思っています。まずは身体に気をつけて、世の中とつながって、何らかの形で人の為になるように生きていきたいと思っております。

全体研修会の部

講演

演題：第1回おやこ de アート in 京セラギャラリー 記念講演
講師：京都教育大学名誉教授 村田 利裕 氏（京町家まち美術館館長）

本年8月に京セラ株式会社と一緒に開催（京都府後援）した子どもの絵画展の審査委員長、京都教育大学名誉教授の村田利裕氏を講師にお招きし、絵画展の記念講演としてお話しいただきました。

アートを通じて子どもの感性を育む研究をしてこられた先生に、アートが子どもの育ちに与える影響や意義、合わせて今回の絵画展の優秀作品の豊かな楽しみ方を解説していただきました。



アトラクション



音楽演奏 いろは組 with 灯馬&ぼんちゃん

舞鶴市母子福祉会の森本真理子母子部長が所属するバンド「いろは組」に、同会会員の三木灯馬さん及び居川竜也さんが加わったスペシャルメンバーによる演奏で、秋夜（いろは組オリジナル曲）をはじめ、アンコールを含めて5曲を披露していただきました。

- ★絵画の講評は細かいところまで見るポイントを教えていただき良かったです。
- ★皆が協力している大会だと感じました。
- ★支会の頑張っている様子が見れて参考になった。
- ★母子部の頑張りが良かった。
- ★バンドの演奏で元気を貰った。
- ★手作り感のある福祉大会でとても良かった

建物入ってすぐに絵画展の優秀作品10点がお出迎え



来年は、令和6年10月13日（日）京都テルサで開催予定です。ぜひ、ご参加ください！

全作品93点！！ 大好きが集まったおやこdeアートin京セラギャラリー

全作品が、8月7日（月）～25日（金）に京セラギャラリー（京セラ本社ビル1階）で展示されました。



8月21日（月）京セラ本社にて、優秀賞10作品の表彰式が行われました。知事賞は京都府健康福祉部 長谷川 学 部長様に授与していただきました。

応募された全員に、京セラ株式会社から表彰状が準備され、各支会でも表彰式が行われました。



長岡京支会 宇治支会 京丹波支会



村田利裕審査委員長から、全作品に対する講評をいただきました。作品の写真と一緒にフレームに収めて、応募のみなさんに贈らせていただきました。

兵庫県丹波篠山市にて親子で自然体験！

京都市宇多野ユースホステル佐藤隆芳所長様からご紹介いただき、11月11日（土）に篠山チルドレンミュージアム（兵庫県丹波篠山市）で（公財）ノエビアグリーン財団が開催された「未来につながる環境教室」に6組のご家庭が参加されました。



土曜日、天気も少し雨がぱらついた位で、少し風が強かったけど良かったです。子ども達だけで遊んだり、ピザ作りをしているのを、こっそりZoomで見せてもらっていたんですけど、生き生きして楽しそうでした。

親は別部屋で、そのZoomを見ながら豆を煎るところからのコーヒーを楽しんでいました。スケジュールをあえて決めず、早くしなさいを禁句にして、色んな手作り体験をさせてもらって 私達的には凄く楽しかったです。

息子はピザ作りが1番楽しくて、「自分で作ったピザをお母さんに食べてもらえたのが良かった」って言っていました。またここからの企画があったら行きたいなと思いました。



日本プロ野球選手会ドリームキャッチ野球体験教室

令和5年9月23日（土・祝）、長岡京市のご協力のもと、日本プロ野球選手会ドリームキャッチ野球体験教室が開催されました。

長岡京市・宇治市・城陽市・舞鶴市の母子会から22名の子どもが参加しました。



講師のギャオス内藤さん（元東京ヤクルトスワローズ）吉見一起さん（元中日ドラゴンズ）

楽しい指導をありがとうございました。

京都府農林水産技術センターで黒豆枝豆「紫ずきん」の収穫を体験！



きょうとフードセンター（京都府社会福祉協議会）の原伸子様からご紹介をいただき、10月28日（土）京都府農林水産技術センター（亀岡市）で黒豆枝豆の収穫体験をさせていただきました。

「枝豆の木？をひっこ抜いたのも初めてだったので、めっちゃいっぱい豆ついているヤツ抜いたんで！！って、帰ってから

も話が盛り上がりました。」 「湯がき方もいろんなやり方があるんだなと勉強になりました。」

日頃から、きょうとフードセンター様には、地域の母子会・連合会ともに様々な機会でご支援いただいております。この場をお借りして御礼を申し上げます。



きょうとこどもの城づくり事業 居場所へのイベント開催支援事業



道の駅「和」でバーベキューと鮎つかみ

バーベキュー

ホテルでテーブルマナー教室

箱館山へハイキング

物価高騰などにより困窮するひとり親等を支援するため、京都府の事業として、こどもの居場所のイベント支援をしていただきました。夏は、バーベキュー・ハイキング・フルーツ狩り・鯉のちらしずし・スイカ・お楽しみ会・テーブルマナー教室など、冬は、クリスマス会でケーキを作ったり、チキンなどを楽しんだり、工夫を凝らして子ども達が楽しむ行事に使わせていただきました。

母と子だけでは体験しにくいこと・場所を体験することができました。これをきっかけに、子どもたちやお母さんたちがさらに笑顔になれるよう願っています。

冬は居場所の各地でクリスマス会・お楽しみ会



大きく切ったスイカ



居場所でお楽しみ会



ケーキ作り



合同企画

支会からこんにちは

宇治市連合母子会と城陽市母子寡婦福祉連合会が合同で芋掘り＆芋煮会

宇治市連合母子会 北野 ますみ

宇治市連合母子会が税理士としてお世話になっている秋山達様が、城陽市内の畑で無農薬の野菜や果物を作っておられ、日頃から宇治市連合母子会の居場所での子ども食堂に無農薬の新鮮な野菜や果物を提供してくださっています。

今年の夏は、秋山様と一緒に宇治市連合母子会のスタッフと子ども達でサツマイモの苗を200本植えました。その後、暑さの中、草むしり・水やり等をして育ててきました。

以前、秋山様から「地元への恩返しをしたい」とお申し出がありまして、城陽市母子寡婦福祉連合会をご紹介したことがありました。

今回、そのご縁で、合同芋掘り＆芋煮会が実現しました。

今まで、他の母子会との合同で行事をしたことがありませんでしたので、どのようになるか不安もありましたが、10月9日（祝・月）、天候が心配されましたが雨は降らず、芋掘り＆芋煮会を無事に終了することが出来ました。「終了～！」「この場所まで！」と声をかけても止まらないほどで、苦労して植え、育てたお芋は、あっという間に無くなりました。開催は3時間程でしたが、お芋もたくさんお持ち帰りいただき、親子で美味しく調理し食べていただいたようです。

初の取組でしたが、楽しいイベントとして、今後も他の母子会とも交流ができれば活動の幅も広がり、良い関係が築ける一歩かと思えます。



豚汁は参加人数が多かったので足りるか心配でした

知っ と コーナー

ひとり親家庭への直接配送も 「おてらおやつクラブ」をご存知ですか

お寺にお供えされるお菓子や果物、お米や缶詰など、さまざまな食品や日用品の「おそなえ」を、仏さまからの「おさがり」として、子どもを支援する団体やひとり親家庭に「おすそわけ」する活動をされている認定NPO法人です。

最初は団体を通じての「おすそわけ」だったのですが、最近はひとり親家庭への直接配送もされています。

「おすそわけ」を受け取りたい方は、まずは「おてらおやつクラブ」LINE公式アカウントを友だち追加し、相談フォームからご相談ください。

地域の団体とつながり、サポートを受けることは生活していく上で大きな力となります。



学びたい気持ちを応援 奨学金などをチェック



母子家庭で一番の悩みといえば「子どもの教育費」ではないでしょうか？

返済不要の給付型奨学金を紹介します。

- 夢を応援基金『ひとり親家庭支援奨学金制度』
- あすのば入学・新生活応援給付金
- 京都新聞愛の奨学金
- 独立行政法人 日本学生支援機構 (JASSO)
- 公益財団法人 中信育英会奨学金
- 公益財団法人 ほくと育英会奨学金

上記以外にもいろいろな給付型奨学金制度があります。大学独自の奨学金制度というものもあり、高校在学中からの申込みができるものもありますので、進路が決まった段階で申込みができれば、経済的な不安も少しは軽くなるかもしれません。

インターネット等で、ぜひチェックしてみてください！

母子寡婦福祉指導者研修会について

今回は「発達課題のある子どもたち等の関わりについて」(仮題)をテーマに村上貴美氏にご講演をいただき、意見交換などを行う予定です。ぜひご参加ください。



日時：令和6年2月18日(日) 13時30分~16時
場所：京都府立総合社会福祉会館(ハートピア京都)
参加対象者：各支会の役員、母子連絡員など

知事表彰

社会福祉事業・ボランティア功労者知事表彰で 4か所の子どもの居場所が表彰受賞

令和5年9月5日(火)京都テルサで行われた第72回京都府社会福祉大会にて、こどもの居場所事業に取り組んでいる向日市、大山崎町、城陽市、京丹波町の4つの支会が社会福祉事業貢献者として知事表彰を受けました。

これからも健やかな子どもの育ちを願って、居場所づくり事業に取り組んでいきましょう。



「母子会」って いいこといっぱい

母子会は、あなたと子どもたちが安心して暮らせる社会づくりを目指して活動しています。令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症や物価の高騰の影響もありましたが、京都府の食料品・生活必需品等配布事業を受けて、会員の皆さんにお届けすることができました。毎年はいきいきふれあい事業として、バスで出かけて、体験や研修、交流を行っており、他にも各母子会で行事などを開催しています。同じ境遇、同じような体験してきた仲間です。あなたの近くにも母子会があります。どうぞお気軽にお問い合わせください。お問合せは、各地域の母子会、または京都府母子寡婦福祉連合会事務局(電話075-223-1360)まで



あけましておめでとうございます。笑顔があふれる一年だったでしょうか。たくさん、ふれあえる一年だったでしょうか。各支会とも、楽しい行事、新しい取組など心躍らせる内容が盛りだくさん。紙面に収まらず苦慮しました。それぞれに特徴があり、切磋琢磨しながら活動されている様子が印象的でした。今年度はどのような行事が開催されるのかとても楽しみです。活気あふれる一年になりますように。(北野)

社会福祉法人 京都府母子寡婦福祉連合会

発行責任者 佐竹 幸子

〒604-0874

京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375番地

京都府立総合社会福祉会館内

TEL 075-223-1360 FAX 075-950-1503

<https://hitorioya.kyoto/>

